

わがまち再発見!!

シリーズ 文化財の紹介

対馬市教育委員会 文化財課

0920(54)2341

『元寇(蒙古襲来)』

去る2月27日に対馬市交流センターで、対馬市民劇団「漁火」の初公演「元寇余話・島風」がありました。そこで今月はこの元寇(蒙古襲来)についてご紹介します。

文永十一年(1274)夏五月、馬山湾の合浦に集結したのは元軍二万人、高麗軍一万数千人、九百余隻の軍船に分乗して秋七月に出撃の予定でしたが、高麗王の死去により延期され、十月三日に合浦を出ました。巨済島を通過して晩秋の海峡を渡り、五日の夕刻、対馬下郡の西海岸佐須浦沖に現れました。国府で警報に接した守護代宗資国は、急使を大宰府に送り、夜行軍で佐須坂を越え、未明に佐須浦に到着。従軍した八十余騎を率いて布陣しました。夜明けを待って使者を遣わし、来航の理由を尋ねさせよ

うとしたところ、いきなり船上から矢を射かけられ、数隻の軍船から千人ほどの兵が上陸して、たちまち合戦の幕が切つて落とされました。

この元軍襲来の情報を伝えた史料として、「日蓮聖人註画讃」巻五「蒙古来第二十八」には次のように記してあります。

十月五日 申の刻 対馬の佐寸浦に、異国の兵船四百五十艘、三万余人を乗せて寄せ来る。六日朝よりきびしい合戦となり、守護代資国等、蒙古を伐取るといえども、資国の子息らことごとく伐死。十四日、志岐島に押し寄せ、守護代平景隆等、城郭を構えて防ぎ戦えども、蒙古乱入の間に景隆自殺。二島の百姓等、男はあるいは殺され、あるいは擄えられ、女は一所に集めて手を結び、あるいは徹して舷に付け、虜者は一人として害されざるもの無し。

元軍の九百隻の軍船が、佐須浦だけに来たとは考えられず、おそらく全島が侵略されたはず。各地に「蒙古塚」という塚があるのも、悲しい惨劇を想像させます。各地の蒙古塚を調査した限りでは、元寇とは関係のない遺跡であった例が多いのですが、それでも蒙古塚と伝えられたのは、その名称が最も人々に訴える迫力があつたからでしょう。

(厳原町誌より抜粋)



討死した宗資国等を祭る小茂田浜神社大祭

つしま図書館情報

つしま図書館 0920(52)3900

第144回芥川賞、直木賞受賞作品を展示しています。
 芥川賞「きことわ」朝吹真理子/著、「苦役列車」西村賢太/著、
 直木賞「漂砂のうたう」木内昇/著、「月と蟹」通尾秀介/著
 4月のおはなし会は16日(土)午後2時から開催いたします。
 どなたでも参加できます。みなさんのお越しをお待ちしています。

4月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

今月のおすすめ新着本

児童書	『ゆかいにひろがる』 五味 太郎/著 「大きい小さい」「やさしい難しい」「明るい暗い」「良い悪い」など、いろいろな形容詞を楽しむ絵本。反対の意味の形容詞を通して言葉の面白さを伝えます。見開きで大きくページを開くしかけ付き。	『狂言えほん シリーズ』全5巻 内田 麟太郎/著 低学年から楽しめるよう作られています。高学年の国語の教科書で狂言がとりあげられていることもあり、低学年から高学年まで、幅広い年齢の子どもたちが楽しめる内容。	『たれ耳おおかみのジョン』 きむら ゆういち/著 ジョンは、強くてカッコいいおおかみにあこがれているたれ耳犬。森に住むおおかみたちの仲間に入りたくて、家から飛び出しちゃった! ジョンの大ぼうけんのはじまりだ!
	『就職四季報 2012』 学生のための企業情報を6000社掲載。採用数や新卒定着率などの重要データランキングベスト100社や、地域別の採用データ4951社、会社研究1175社、海外勤務情報など、中立・客観的かつ活データが満載。	『トメさんちの前向きごはん』 上大岡 トメ/著 面倒くさい、時間がない、メニューが思い浮かばない。そんな時でもごはん作りをラクに乗り切る49の技を伝授。サンヨー食品ホームページ掲載の『上大岡トメの前向きごはん』に加筆し書籍化。	『手と脳』 久保田 競/著 手を創造的に使うことによって脳の働きを高められると説いた著者が、手の基本構造、感覚の処理、器用さ、利き手の謎などを、脳とのつながりから探究する。脳科学の最新知見を加えた増補新装版。